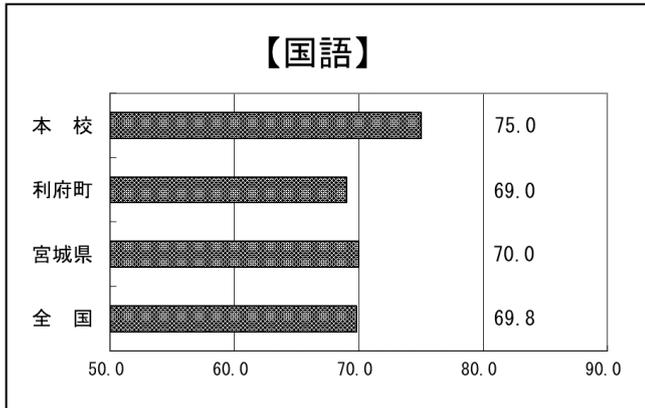


令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果とこれからの取組

今年の4月18日（火）と27日（木）に、全国の公立中学校に通う3年生を対象に、「全国学力・学習状況調査」が行われ、その結果が各校に7月下旬に届きました。これに基づいて、この度、本校の生徒の学習や生活の状況について、良さや課題についてまとめましたので、お知らせいたします。

1 学力調査の結果

(1) 【国語】（数値：平均正答率%、比較：全国の平均正答率との比較）

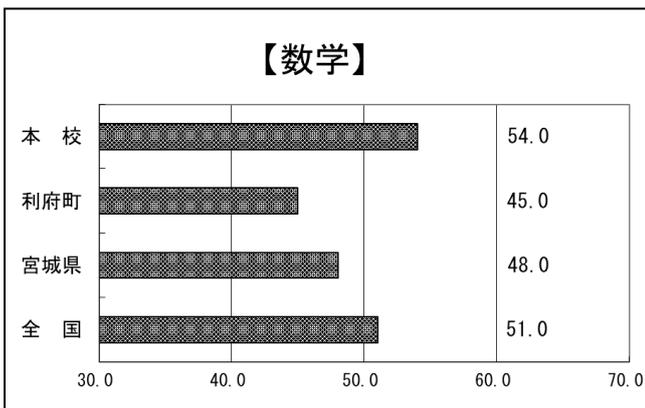


- ・全国の平均正答率を5.2ポイント上回り、国語の基礎・基本の力がしっかりと身に付いていることが分かりました。
- ・知識及び技能の内容では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」が2.1ポイント、「情報の扱い方に関する事項」が1.3ポイント、「我が国の言語文化に関する事項」が9.8ポイント全国平均を上回る結果となりました。
- ・思考力、判断力、表現力等の内容では、「話すこと・聞くこと」が5.0ポイント、「書くこと」が5.6ポイント、「読むこと」が6.6ポイント全国平均を上回る結果となりました。

具体的な学習状況（全国平均正答率と比較して、◎よくできていた問題 ●課題として挙げられる問題）

- ◎説明的な文章の読解において、文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりする問題の正答率が特に高くなっていました。
- ◎古典の文章の読解において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える問題の正答率が特に高くなっていました。
- 意見と根拠など、情報と情報との関係についての理解を問う問題で課題が見られました。
- 事象や行為、心情を表す語句についての理解を問う問題で課題が見られました。

(2) 【数学】（数値：平均正答率%、比較：全国の平均正答率との比較）

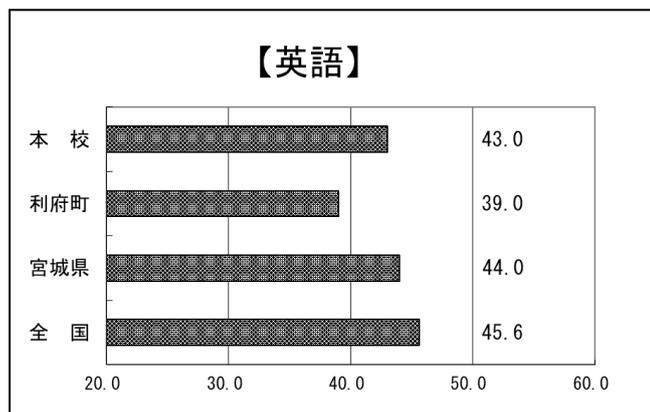


- ・全国の平均正答率を3.0ポイント上回り、数学の基礎・基本の力が身に付いていることが分かりました。
- ・「数と式」の領域では、2.5ポイント全国平均を上回る結果となりました。
- ・「図形」の領域では、10.8ポイント全国平均を上回る結果となりました。
- ・「関数」の領域では、3.0ポイント全国平均を上回る結果となりました。
- ・「データの活用」の領域では、3.9ポイント全国平均を下回る結果となりました。

具体的な学習状況（全国平均正答率と比較して、◎よくできていた問題 ●課題として挙げられる問題）

- ◎目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして事柄が成り立つ理由を説明する問題で、全国平均を大きく上回りました。
- ◎ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる問題で、全国平均を大きく上回りました。
- 累積度数の意味の理解に課題が見られました。
- 四分位範囲の意味の理解に課題が見られました。

(3) 【英 語】(数値：平均正答率%、比較：全国の平均正答率との比較)



- ・全国の平均正答率を 2.6 ポイント、宮城県の正答率を 1.0 ポイント下回りました。
- ・「聞くこと」の領域では、2.6 ポイント全国平均を下回る結果となりました。
- ・「読むこと」の領域では、正答率が全国平均と同じ結果となりました。
- ・「書くこと」の領域では、5.0 ポイント全国平均を下回る結果となりました。

具体的な学習状況（全国平均正答率と比較して、◎よくできていた問題 ●課題として挙げられる問題）

- ◎ある状況を描写する英文を読み、その内容を最も適切に表しているグラフを選択したり、英語を聞いて最も適している絵を選択したりする問題で、正答率が特に高くなっていました。
- 社会的な話題に関して書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く問題で課題が見られました。
- 日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取るかどうかをみる問題で課題が見られました。

2 今後の取組について

【国 語】

- ・自分の考えを話す活動を單元ごとに設定し、根拠を明確にして話すことの重要性を理解させ、思考力、判断力、表現力等の育成を図っていきます。
- ・文章の内容を読み取る活動では、説明的な文章や文学的な文章など様々な文章の読解において、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との違いに注意して読み取る活動を繰り返し行うことで、語感を磨き、語彙力を高めさせていきます。
- ・朝読書の推進や多くの書物に触れる機会を定期的に設ける等、図書館教育の更なる充実を図り、読書好きな生徒の育成に努めていきます。

【数 学】

- ・今後も毎週末に週末課題を実施し、その週の授業内容を振り返らせるとともに、既習事項の確かな定着を目指していきます。
- ・授業において思考力の育成を意識した課題設定と、数学的用語を用いた表現活動を多く取り入れていきます。
- ・学び合い学習を効果的に取り入るなど校内研究とも関連させ、授業を通して質問し合える関係性の構築を今後も目指していきます。

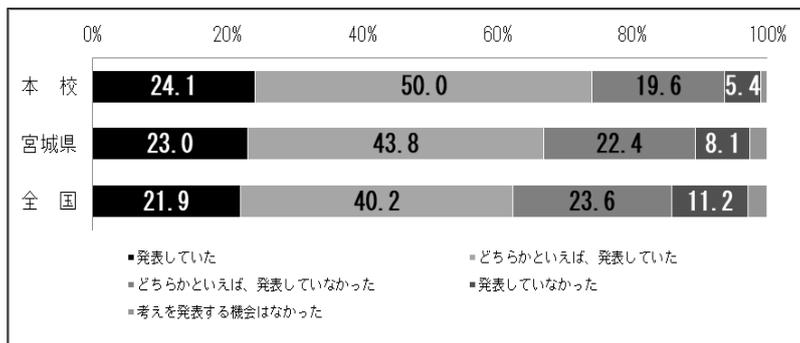
【英 語】

- ・今後も新出語句や基本文のパターンプラクティスに取り組む時間を十分に確保し、基礎・基本の知識の定着に努めていきます。
- ・普段から社会的・日常的な話題に関心を持たせ、自分の考えを級友に説明したり比較したりすることで、より考えを深められる授業づくりを心掛けていきます。

3 学習状況調査の結果（数値：回答率%、比較：全国の平均回答率との比較）

(1) よい傾向が見られる項目

- ① 1・2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。

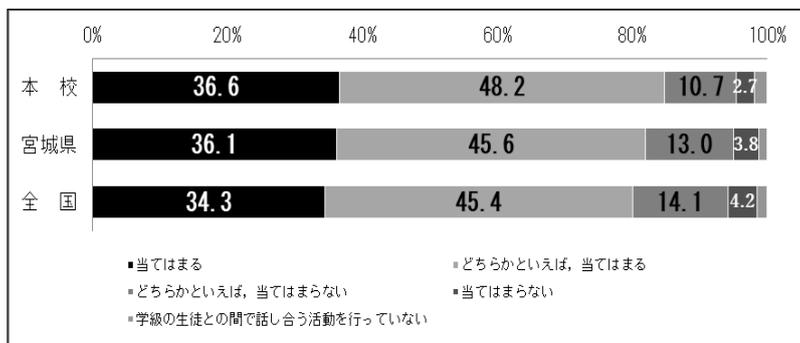


全国平均に比べ、「発表していた」「どちらかといえば、発表していた」と回答している生徒の割合が12.0ポイント高くなっています。

学習課題の解決に向けて、話し合ったり、まとめたり、表現したりする活動を授業で積極的に取り入れてきた成果が現れてきたと捉えることができます。

今後も「個」の習熟の時間や根拠を基に自分の考えを構築する時間を十分に確保し、自分の考えを発信できる学びの場の創造に努めていきます。

- ② 学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。



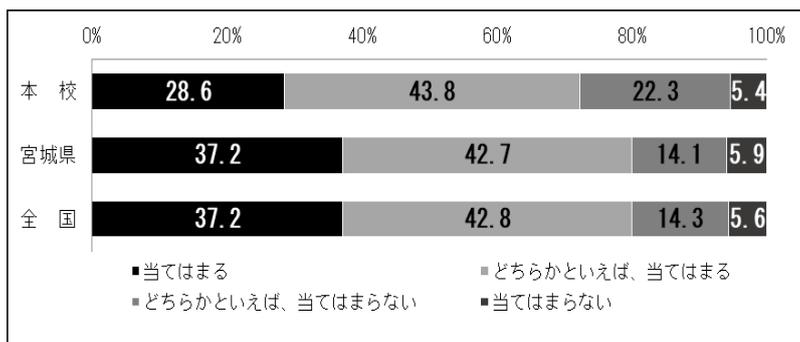
全国平均に比べ、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している生徒の割合が5.1ポイント高くなっています。

主体的・対話的で深い学びに迫ることができている生徒が多く見られると捉えることができます。

今後も学習のさまざまな場面において、グループやペアで話し合う活動を効果的に取り入れながら、深い学びが得られる授業の実践に努めていきます。

(2) 改善が必要と思われる項目

- ① 自分には、よいところがあると思いますか。

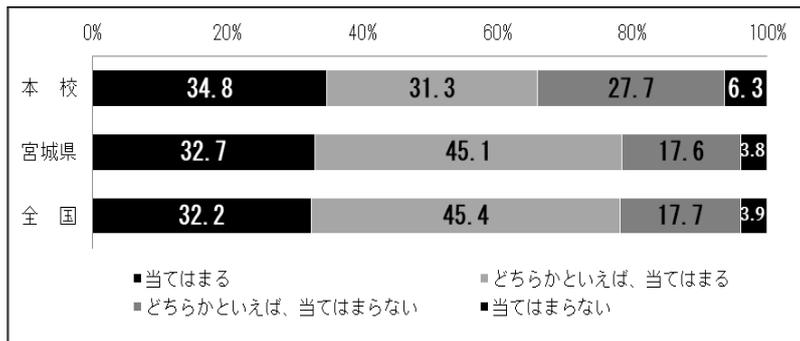


全国平均に比べ、「当てはまる」と回答している生徒の割合が8.6ポイント低くなっています。

自己肯定感（自分のよさを肯定的に認める感情）が低い傾向にあると捉えることができます。

自分と他者（集団や社会）との関係を自他共に肯定的に受け入れられる姿勢を育ていけるよう、個々の生徒の取り組みを認め、褒める声掛けを継続し、自己肯定感の向上に努めていきます。

- ② 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。



全国平均に比べ、「当てはまらない」「どちらかといえば、当てはまらない」と回答している生徒の割合が12.4ポイント高くなっています。

物事を広い視野から多面的・多角的に考えることに慣れていない生徒が一定数見られると捉えることができます。

さまざまな教育活動の場において、道徳教育との関連も図りながら、自己理解だけでなく、他者理解にも積極的に取り組む姿勢を育てることができるよう努めていきます。